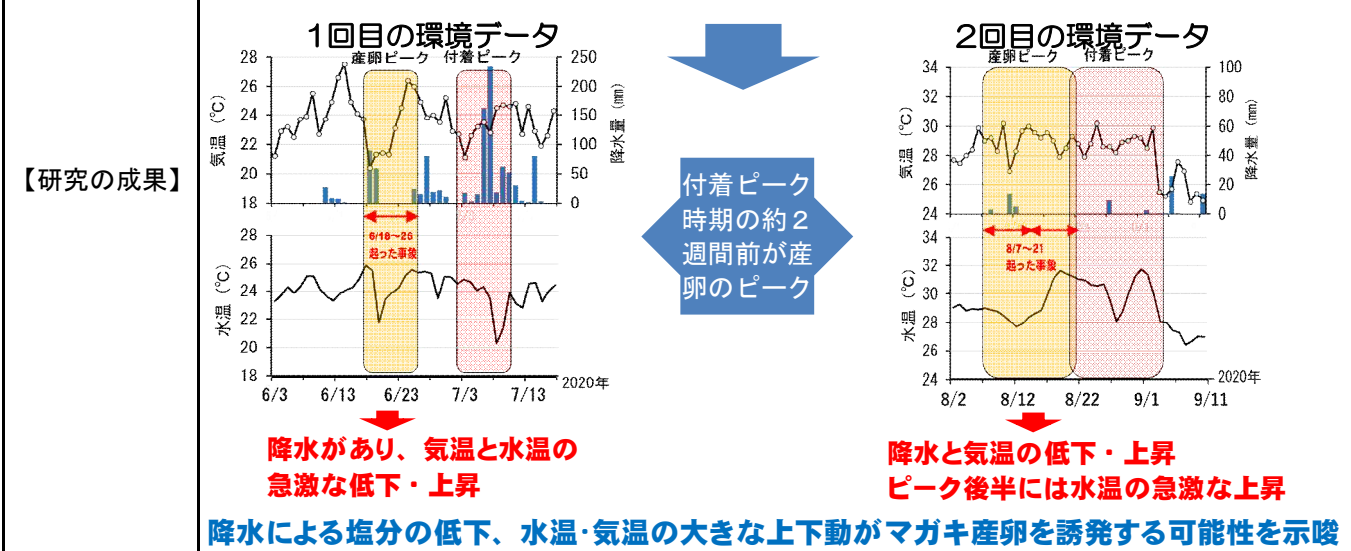
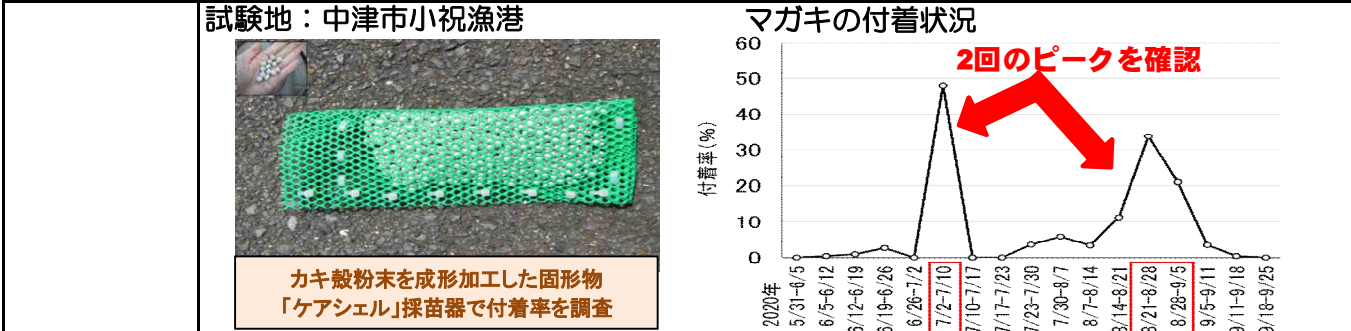
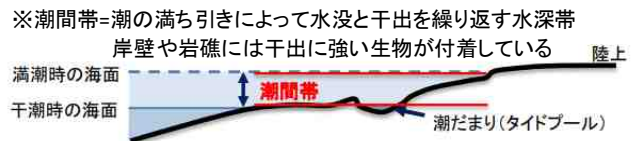


身近な環境データからマガキの最適な採苗時期を推測！

《現状・課題》
 県内では主要産地の杵築をはじめ、中津、国東など各地でマガキ養殖が盛んに行われています。当グループでは種苗確保の低コスト化に向け、国の研究機関などで開発された、潮間帯に付着器を垂下することで、マガキのみを効率的に天然採苗できる簡便な技術の有効性を確認しました（研究Now vol.97）。

《研究のポイント》
 しかしながら、天然採苗では採苗器を垂下する時期によっては、稚貝が得られなかったり、フジツボ等の干出に強い他の生物によってマガキの付着が妨げられる課題もありました。そのため、安定的に効率良く種苗を得るには、海域に存在する親ガキの産卵時期や、生まれた幼生の付着時期を正しく見積り、採苗器をタイミング良く垂下する必要があります。

《研究内容》
 そこで、採苗器を用いたマガキ稚貝の時期別付着データに対応した降水量・水温・気温などの環境条件との関係から最適な垂下時期を推測できる技術を開発しました。



降水があり、水温・気温の急激な上下動を観測してから約2週間後が採苗器の垂下に適したタイミング!!

【生産者の声】

大分県漁業協同組合 杵築支店長 奥井 豊広 氏

天然採苗の実施については、およそこの時期だろうという感覚で垂下していたため、年によっては稚貝の付着が少なく、出来の悪い種苗しか手に入らないこともありました。科学的根拠に基づき安定して天然種苗が確保できれば大変ありがたいので、今後の研究成果に期待しています。

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター水産研究部 北部水産グループ 資源増殖チーム
 TEL：0978-22-2405
 住所：豊後高田市呉崎3386番地